



皆さんのお家のお雑煮は、白みそですか？それともおすましですか？我が家は、甘めのおすましペースに岩のりと切りイカ、とうふ、お餅を入れます。さてどこの県のお雑煮でしょう!?



ひかりの子幼稚園
園長 若槻 三記子

新しい年を迎え、子どもたちの元気な声が園に戻ってまいりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

先日、倉治小学校教頭で、クリスチャン、卒園児の保護者でもある野地岡先生をお招きして「人権研修」をしていただきました。これまで私は、人権教育というと「この言葉は使ってはいけない」というマニュアルのような、どこか難しく堅苦しいものとして捉えていました。しかし、今回のお話は、私達の保育者の悩みに優しく寄り添い、保育の指針になるものでした。

保育の現場は、判断に迷うことが多くあります。例えば排泄の場合、トイレに行きたくないと言う子に「途中で行きたくなったら困るから、今行っておいで」と促したり、給食の時間に何でも食べられる子になって欲しいと願うあまり、「もうちょっと食べられる?」と言ったり…。これらも実は、子どもの気持ちを置き去りにした、人権に反した関わりになり得ます。私達は日々、その子にとって何が正解なのかと悩み、迷い、葛藤の中で判断を下しています。

今回のお話の中で私の心にストンと落ちたのが『WWJD』 **What Would Jesus Do?** (イエスさまならどうされるだろう)という視点でした。イエス様なら、今目の前で困っている子、嫌がっている子を、大人の都合で動かそうとはなさらないでしょう。イエス様の周りに子どもが集まった時、弟子たちが追い払おうとするのを「子どもたちを私の所に来させなさい。」とたしなめ、一人ひとりを抱き上げ、祝福されたように、イエス様なら、まずはその子の「嫌だ」と言う気持ちを丸ごと受け入れ、隣に座ってくださるのではないのでしょうか。それが正解かどうかではなく、神様ならこんな時どうされるかと思うことが大切だと思います。

また「保育者が自己開示をしていくことで、子どもは安心して自分を表現できるようになる。」ともおっしゃいました。子どもは大人の心を映す鏡です。大人が不安であれば子どもも不安になります。大人が「私も失敗するんだよ。」とありのままをさらけ出すことで、子どもも自分を出すことができます。私たち保育者は、そのような安心できる場所、存在になりたいです。そのためには、まず私たち保育者自身が愛で満たされていなければなりません。

「自分が好きかどうかを 10 点満点で表して下さい。」と野地岡先生に言われました。「自分を好きになれない人」も、「自分を大好きだと思う人」も、神様は等しく愛を注いでくださいます。私を創造し、ありのままの存在を愛して下さる神様の愛に触れ、自我と言う仮面をかぶっていたかたくなな心が砕かれ、心が癒されるような温かな時間を持つことができました。

愛を受け取り、愛を与えるという循環が、豊かに巡っていくことを願っています。新しい一年、私たち職員も神様の愛に満たされ、その温かな眼差しで、子どもたち一人ひとりの歩みに寄り添ってまいります。



【子どもの発言集】

- ★入園したての A ちゃんは、ママに会いたくなくてお帰り支度を始めました。「お邪魔しました～」とリュックを背負いドアを閉めて帰ろうとする姿にみんなびっくり!! ちゃんと挨拶するところが微笑ましいですね。
- ★「あんな～パパ、へそくり持ってるねんで!」と B ちゃんが先生に暴露。「でも(私に)これへそくりやでってばらしてんねん。そんなんへそくりちゃうやんなー!」 その通り、よくわかっている 🍌

